



コマーシャル価値における AMD Ryzen™ AI PRO のリーダーシップ

AMD Ryzen™ AI PRO 搭載のノート PC に移行することで、
企業は数百万ドルの取得コストと従業員の時間を節約できます。

Ryan Shrout

協力:



signal65.com

コンテンツ

3	概要	9	マルチタスク パフォーマンス
4	AMD Ryzen AI PRO 300 シリーズの概要	11	バリュー モデルの計算
5	AMD Ryzen AI PRO テクノロジ	18	まとめ
6	システム構成	19	本レポートに関する重要なお知らせ
7	パフォーマンス テスト	20	システム構成

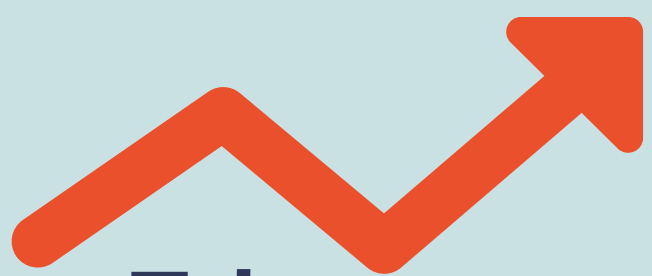
概要

コマーシャル エンタープライズでは、システムの刷新や従業員のデバイス更新が頻繁に発生しています。これは、企業の CIO にとって、課題であると同時にチャンスでもあります。プラットフォームのアップグレードには、システムの移行、ソフトウェアの更新、検証が必要な新しいハードウェアなど、多くの困難な作業が伴います。それと同時に、生産性の向上、セキュリティの強化、IT への投資価値の改善を実現するチャンスでもあります。

AMD テクノロジと Ryzen™ AI PRO 300 シリーズを搭載した新しいプラットフォームは、定期的な IT 更新が当たり前であるという常識を打ち破る説得力を備えています。パフォーマンス、効率性、AI 機能、そして優れたコストパフォーマンスを兼ね備えたこの次世代プロセッサは、今年購入を検討している IT 部門にとって有力な選択肢となります。

AMD Ryzen AI PRO プロセッサを搭載した Lenovo T14s Gen 6 と Dell Pro 14 Plus を対象に Signal65 が実施したテストにおいて、Intel Core Ultra ソリューションを搭載した大手 OEM ノート PC と比較したところ、いくつかの重要なポイントが明らかになりました。

- AMD Ryzen AI 7 PRO 350 システムでは、従業員の時間価値を \$5,300 万以上節約可能¹
- AMD Ryzen AI 5 PRO 340 システムでは、従業員の時間価値を \$3,400 万以上節約可能
- AMD Ryzen AI 7 PRO 350 プロセッサは、マルチスレッド アプリケーションで最大 24% 高速
- AMD Ryzen AI 7 PRO 350 は、オフィス生産性アプリとクリエイティブ アプリを含むマルチタスク シナリオで最大 150% 高速



最大
\$5,300 万
コスト削減

本レポート (Signal65 Lab Insights) では、3 種類のまったく異なるコマーシャル ユーザー ペルソナを対象に実施したパフォーマンス テストと価値分析を詳しく解説し、これらの結果につながったプロセスを示します。さらに、AMD Ryzen AI PRO プロセッサの重要な機能と特長についても取り上げます。



1. 総コスト削減額の算出では、一般的なオフィス業務に従事する 1 万 9,000 人の従業員、クリエイティブ業務に従事する 4,000 人の従業員、2,000 人の経営層を抱える企業を例にとり、初期システム取得費用 (従業員 1 人あたり) と 1 人の従業員が節約した時間価値 (典型的なオフィス業務のワークロードにおけるマルチタスク パフォーマンスを使用) を比較しています。

AMD Ryzen™ AI PRO 300 シリーズの概要

AMD Ryzen™ AI PRO 300 シリーズ プロセッサは、エンタープライズ コンピューティングを飛躍的に前進させ、AI 搭載ビジネス PC の新時代を切り開きます。卓越したパフォーマンス、効率性、先進的な AI 機能を提供する設計を備えており、次世代 AI エンタープライズ PC 向けの世界最高のプロセッサとしての地位を確立しています。

AMD Ryzen AI PRO 300 プロセッサ シリーズの中核となるのは、モデルに応じて最大 12 コア/24 スレッドを備えた次世代 CPU アーキテクチャです。このコア数に、強化された分岐予測精度とより広いパイプラインを組み合わせることで、幅広いエンタープライズ ワークロードにわたり、大幅なパフォーマンス向上を実現します。また、このプロセッサは、50 ~ 55 TOPS (TOPS とは、1 秒あたりの演算回数を 1 兆回単位で表したもの) の AI パフォーマンスを実現する次世代ニューラル プロセッシング ユニット (NPU) を搭載しています。これは、AMD Ryzen プロセッサの第 1 世代 NPU と比較すると最大 5 倍の処理能力となります。

統合 GPU も大幅に強化され、最大 16 の演算ユニットとクロック速度の向上を実現しています。こうした改善は、前世代と比べて、グラフィックス パフォーマンスを高めるだけでなく、AI の高速化とシステム全体の効率化にも貢献しています。さらに、メモリ アクセスと消費電力管理機能の改良により、性能対消費電力比が最適化され、モバイル エンタープライズ ソリューションに最適なプロセッサとなっています。

AMD Ryzen AI PRO Processor 300 シリーズの大きな強みのひとつは、エンタープライズ環境で次世代の AI 体験を実現できることです。これらのプロセッサは、Microsoft の Copilot+ とシームレスに連携するように設計されており、強力な NPU を活用して、ほかのビジネス PC では処理が難しい高度な AI モデルやタスクを処理します。この機能により、生産性の向上、高度なコラボレーション、エンタープライズワークフローの効率化に向けて、新たな可能性が開かれます。

AMD Ryzen™ AI PRO 300 シリーズ プロセッサ

パフォーマンス。効率。次世代の AI 体験。



- エンタープライズ向けのパワフルな CPU
- 優れたパフォーマンスとバッテリー ライフ
- コア数の増加
- 最大 12 コア/24 スレッド



- エンタープライズ向けのパワフルな NPU
- 前世代と比較して最大 5 倍の AI パフォーマンス
- Copilot+ 対応

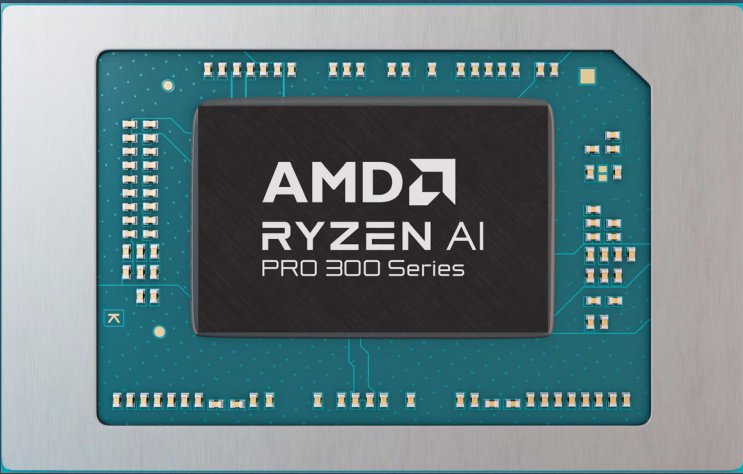


- 要求の厳しいエンタープライズ ワークロード向けのパワフルな iGPU
- ワットあたりのパフォーマンスの向上
- クロック速度とコア数の増加



- PRO によるセキュリティ
- PRO 管理機能
- PRO ビジネス対応機能

AMD Ryzen™ AI PRO テクノロジ



AMD Ryzen™ AI PRO は、ビジネスおよびエンタープライズ環境専用に設計されたプラットフォームです。AMD Ryzen プロセッサベース アーキテクチャの強力なパフォーマンスと、最先端のセキュリティ機能、堅牢な管理ツール、エンタープライズ級の信頼性を組み合わせ、Microsoft との深いセキュリティ連携により、すぐに使えるシームレスな体験を実現しています。

AMD Memory Guard ²	128 ビット キーを使用したリアルタイム メモリ暗号化により、物理的な攻撃から保護し、ソフトウェアの変更を必要とすることなく RAM 内のデータを保護
Microsoft Pluton セキュリティ プロセッサ ³	ゼロトラスト原則に則ったチップからクラウドまでのセキュリティ技術で、ハードウェアベースの信頼のルート、安全な ID、TPM 2.0 を超える追加のセキュリティ機能を提供
AMD Secure Processor	専用ハードウェア セキュリティ サブシステムで、ハードウェア ベースの信頼のルート、セキュア ブート、暗号化アクセラレーション、 およびファームウェア TPM 機能を提供、機密データを保護し、システムの整合性を維持
AMD Shadow Stack	ハードウェアで強化されたスタック保護機能により、リターン アドレス用の独立したスタックを維持し、関数のリターン時にそれらを比較することで、ROP 攻撃を緩和
クラウドベースのリモート管理性	IT チームがリモート デバイスにリアルタイムでアクセスし、サポートすることが可能。場所を問わず、システム更新、展開、イメージング、およびエンドユーザー サポートを大規模に実行
DASH (システム ハードウェア用デスクトップおよびモバイル アーキテクチャ)	マルチベンダー管理機能を提供。IT 部門は単一のツール セットを使用して、異なる OEM の PC を管理でき、効率性と柔軟性の向上を達成
AMD 管理機能プロセッサ	リモート PC のワイヤレス管理が可能。IT チームは、システムが電源オフまたは応答がない状態でも、システム更新、展開、およびイメージングを実行可能

AMD PRO テクノロジの詳細を読む: <https://www.amd.com/en/products/processors/technologies/pro-technologies.html>

2.AMD メモリ ガードによる完全なシステム メモリ暗号化は、AMD Ryzen PRO、AMD Ryzen Threadripper PRO、AMD Athlon PRO プロセッサに含まれています。OEM による有効化が必要です。製品を購入する前に、システム メーカーにお問い合わせください。

3.Microsoft Pluton は、Microsoft が所有し、AMD にライセンス供与されたテクノロジーです。Microsoft Pluton は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。詳細については、<https://www.microsoft.com/security/blog/2020/11/17/meet-the-microsoft-pluton-processor-the-security-chip-designed-for-the-future-of-windows-pcs/> をご覧ください。Microsoft Pluton セキュリティ プロセッサは、OEM による有効化が必要です。製品を購入する前に、OEM メーカーにお問い合わせください。AMD は、第三者の主張を独自に検証していません。

システム構成



このページ以降では、対象システムとパフォーマンステストを紹介し、冒頭ページで示した結果を算出するステップを説明します。これらは Ryzen AI 7 PRO 300 シリーズおよび Ryzen AI 5 PRO 300 シリーズの両方を対象としています。**まず、高負荷のシングルスレッドおよびマルチスレッドのワークロードにおけるプラットフォームとプロセッサの一般的なパフォーマンスを確認**し、汎用オフィス生産性ベンチマークを示し、コンテンツ制作に関する主な結果を取り上げます。続いて、複数のアプリケーションを同時に実行している際のシステム パフォーマンスに注目して**マルチタスクのシナリオを解析**します。これは商用ユーザーにとって非常に典型的な環境です。最後に、**マルチタスクのデータを使用して時間価値を計算**し、3 種類の独自のコマーシャル従業員ペルソナに焦点を当て、時間の節約と、それに伴う企業コストの削減を示します。

なお重要な点として、本レポートで実施されたシステムおよびテストは、エンタープライズ級の IT イメージをインストールした状態で実行されています。これは、クリーンな Windows 11 の標準

	LENOVO THINKPAD T14S GEN 6	競合コマーシャル ノート PC (ベンダー A)	DELL PRO 14 PLUS	競合コマーシャル ノート PC (ベンダー B)
CPU	AMD Ryzen AI 7 PRO 350	Intel Core Ultra 7 268V	AMD Ryzen AI 5 PRO 340	Intel Core Ultra 5 236V
グラフィックス	AMD Radeon 860M	Intel Arc 140V	AMD Radeon 840M	Intel Arc 130V
RAM	64 GB DDR5-5600	32 GB LPDDR5X-8533 (オンチップ)	16 GB LPDDR5X-7500	16 GB LPDDR5X-8533
ストレージ	1 TB Micron MTFDKBA1T0TGB-2BK15ABLT	1 TB Samsung MZVLC1T0HFLU-00BL	512 GB Western Digital SN5000S	512 GB Kioxia BG6
ディスプレイ	14" 1920x1200	14" 1920x1200	14" 1920x1200	14" 1920x1200
システム BIOS	R2XET33W	N4HET17W	1.5.1	2.4.2
オペレーティング システム	Windows 11 Pro 26100.4770	Windows 11 Pro 26100.4770	Windows 11 Pro 26100.4770	Windows 11 Pro 26100.4770
Windows 電源モード	ハイ パフォーマンス	ハイ パフォーマンス	ハイ パフォーマンス	ハイ パフォーマンス
仮想化ベースのセキュリティ	有効化	有効化	有効化	有効化

イメージではなく、IT ツールや管理アプリケーションをインストールした状態で、これらのプロセッサとノート PC の能力を解析することがより現実的で有益であると Signal65 が考えていることによるものです。これらのシステムには、CrowdStrike Falcon、Microsoft InTune の登録、Office および OneDrive のバックグラウンド動作といった共通サービスが含まれていました。なお、これらの IT 構成について展開時間を直接測定

したわけではありませんが、AMD ベースと Intel ベースのシステム間でプロセスは本質的に同一でした。

つまり、これらのシステムにバックグラウンドでかかる負荷は、ほかのテストよりも重くなり、システムのパフォーマンスや特性への影響も変化する可能性があるということを意味します。これはまた、IT の意思決定者がシステムを展開する方法に似ているということでもあり、商用ユーザーがプロセッサやシステムを

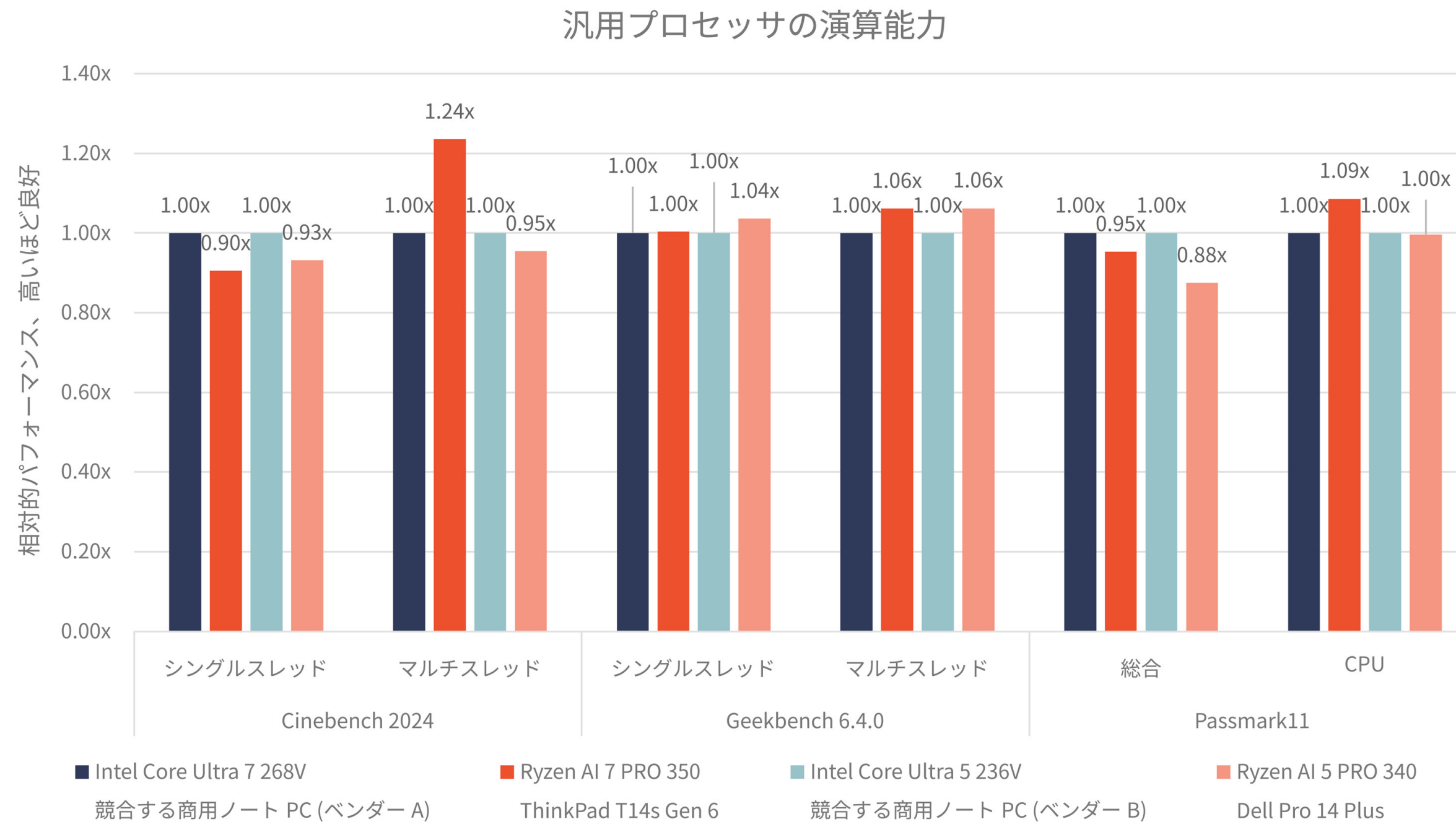
使用する際に経験する状況により近いことを示しています。そのため、マルチスレッド機能やバックグラウンド機能の処理能力に、より重点が置かれることになります。



パフォーマンス テスト

システム全体のパフォーマンス

このチャートは、Geekbench、Cinebench、Passmark の各テストシリーズにおけるすべてのプラットフォームのパフォーマンスを比較したものです。これらのテストは、各プラットフォームのピーク時および持続的なパフォーマンスを把握するのに有効であり、実際のアプリケーションを実行したテストを実施することで比較の精度と焦点がより明確になります。スコアは競合である Intel プラットフォームのパフォーマンスを基準として示しており、Ryzen 7 と Core Ultra 7、Ryzen 5 と Core Ultra 5 を比較しています。



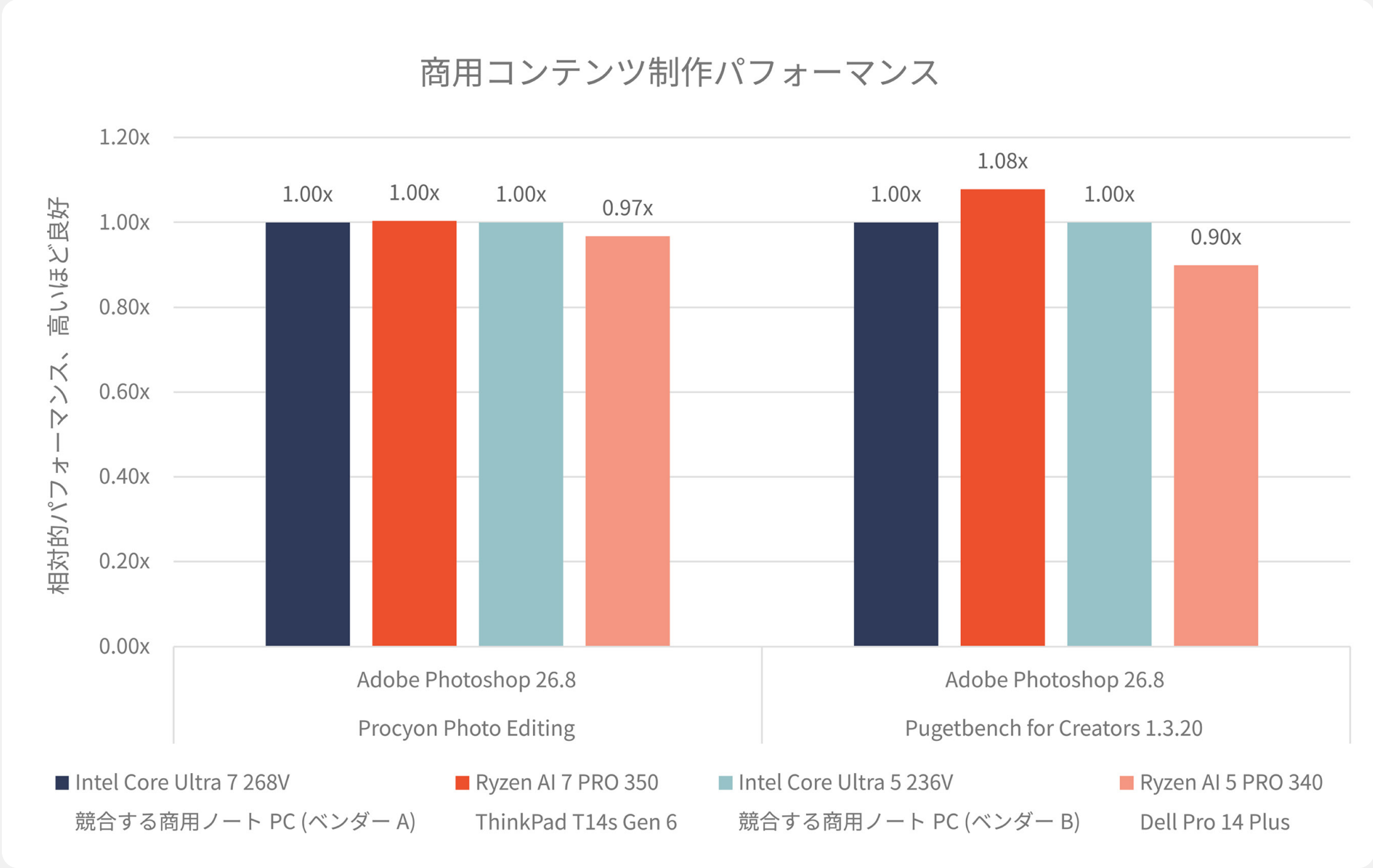
Cinebench 2024 および Geekbench 6.3.0 におけるシングルスレッドおよび軽負荷スレッドのパフォーマンス結果では、Ryzen AI 7 PRO 350 はシングルスレッド性能で Core Ultra 7 268V と同等の範囲にあり、マルチスレッド性能では Cinebench 2024 に基づき最大 24% 高速になっています。Ryzen AI 5 PRO 340 も同様の位置付けにありますが、Ryzen 7 ソリューションのような、大きなマルチスレッドでの優位性は見られません。

これらの結果を踏まえると、上位の Ryzen AI CPU に搭載されている 8 基の Zen 5 コアのほうが Intel Core Ultra プラットフォームに搭載されている複雑な 4 + 4 (高性能コア + 高効率コア) 構成よりも優位であることが分かります。

クリエーション パフォーマンス (コーポレート クラス コンテンツ クリエイター)

2つのパフォーマンス ツールを使用し、対象となる4つのプラットフォームの基本的なコンテンツ制作パフォーマンスを確認します。コマーシャル環境で最も一般的に使用されるコンテンツ制作アプリケーションの1つであるAdobe Photoshopで、2種類のユニークなベンチマークを実行しました。

Ryzen AI 7 PRO 350を搭載したThinkPad T14s Gen 6は、PugetBench ベースのPhotoshopテストで競合するCore Ultra 7 268Vより最大8%高速であり、Procyon ベースのテストでは同等の結果となりました。Ryzen AI 5とCore Ultra 5の比較では、6コアのRyzen AI 5 PRO 340は、8コアのCore Ultra 5 236Vとほぼ同等であるものの、最大で10%劣るパフォーマンスを示しました。



まとめ

幅広い汎用テストにおいて、AMD Ryzen AI 300 シリーズを搭載したノート PC は、競合のコマーシャル製品に匹敵するか、それを上回る優れた生産性とクリエイション パフォーマンスを発揮します。これは、現時点でのユーザー エクスペリエンスを向上させると共に、AI 機能や Copilot+ PC による今後の生産性アプリの進化にも十分対応できることを示しています。

AMD Ryzen AI 300 シリーズを
 搭載したノート PC は、優れた
 生産性とクリエイション
 パフォーマンスを発揮します。

マルチタスク パフォーマンス

お客様から常に尋ねられることの1つに、ユーザーが実際にコンピューターを使用する状況をシミュレーションし、より「現実的な」環境でパフォーマンスを評価するにはどうすればよいかという質問があります。商用分野では、一般にそれぞれが「軽い」タスクとみなされるようなマルチタスクの多用がひとつの鍵となります。

Signal65 は、複数のソフトウェア シナリオを設定し、AMD Ryzen™ AI 300 シリーズ プロセッサと、競合する Intel 製ノート PC ハードウェアの性能を比較しました。

これは、ベンチマークからアプリケーションへ、そしてマルチタスクへと移行する、当社の「データから価値へ」の発展モデルの第3段階です。



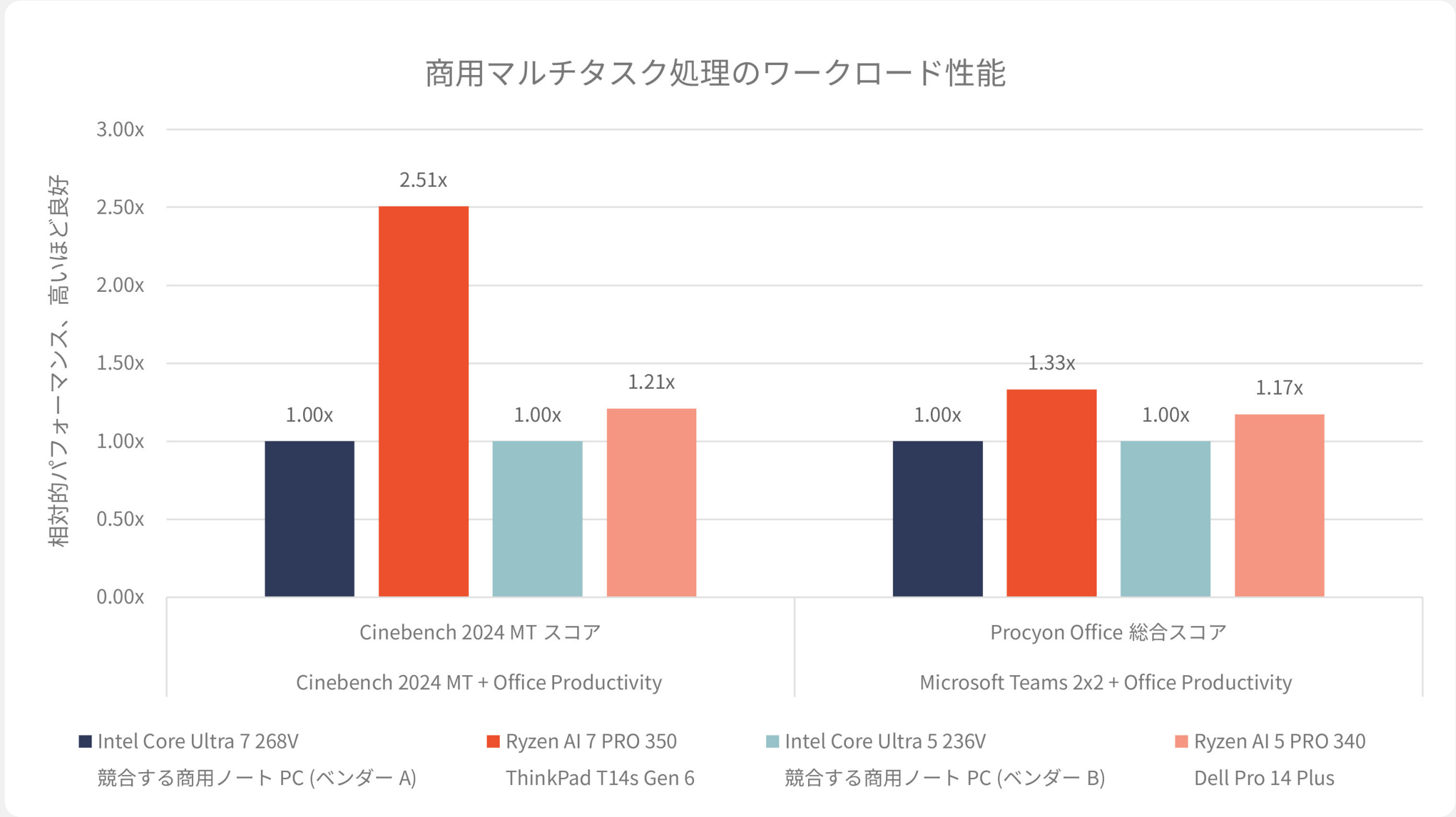
1: Office Productivity + 重い CPU 負荷

この構成では、CPU 負荷の高いバックグラウンド処理を実行しながら、Procyon Office Productivity を用いてオフィス ソフトウェアのパフォーマンスを測定します。ここでは、Cinebench 2024 のマルチスレッドテストを使用しました。これは、コマーシャル ユーザーがバックグラウンドで軽いレンダリングを実施しながら Office の作業を処理する、あるいは大きなファイル セットを zip 圧縮しつつ同じ Office ワークロードを処理する、といった、いわばワースト ケースに近いシナリオを表しています。このシナリオでは両方のタスクが測定可能であり、スコアは次のような比較となります。

2: Office Productivity + Teams 通話

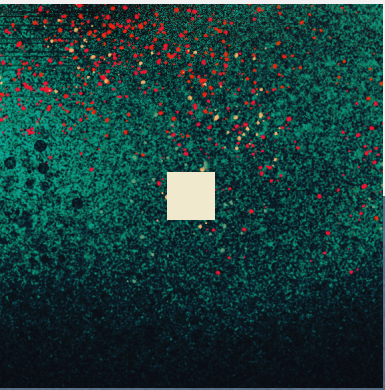
このシナリオでは、Procyon Office Productivity テストと、バックグラウンドで実行される Teams ビデオ会議通話を組み合わせています。これは、情報系ワーカーやオフィス ワーカーが日常的に経験するマルチタスクをシミュレーションした一般的なユース ケースです。このテストでは、2x2 の Teams 会議通話の体験が許容範囲内であれば、測定対象となるパフォーマンス コンパレータは Office Productivity スコアとなります。

マルチタスク パフォーマンス



左側のグラフは、前述のシナリオ #1 の結果を示しています。Cinebench 2024 を用いた高負荷のバックグラウンド ワークロードでは、AMD Ryzen AI 7 プロセッサのパフォーマンス優位性は Intel の競合製品の最大 2.5 倍でした。このワークロードを初期のデータで個別に実施したところ、AMD プロセッサのほう が 24% 高速でした。これは、ノート PC 上での作業が複雑であるほど、AMD のほう が Intel よりも優位であることを示す明確な一例です。さらに Ryzen AI 5 PRO 340 では、Intel Core Ultra 5 236V システムに対してパフォーマンスが 5% 劣っていましたが、21% の優位へと転じました。つまり、Ryzen のマルチコア アーキテクチャであれば、ユーザーは優れたフォアグラウンド処理性能だけでなく、同時にバックグラウンド処理の高速化も実感できるということです。

右側のグラフは Teams + Office のテスト結果を示しており、その結果も同様に説得力があります。一見、より一般的で軽量なマルチタスク シナリオのようですが、AMD Ryzen AI 7 PRO 350 システムは Intel ベースの代替システムよりも 33% 以上高いパフォーマンスを発揮しています。これは、AMD ベースのシステムが絶対的なパフォーマンスで大きな優位性をもつことを示しています。また、さまざまなマルチタスク シナリオでより優れたマルチスレッド、マルチコア パフォーマンスを発揮し、広範なメリットが得られる可能性があることも明確に示しています。



AMD Ryzen AI PRO ノート PC は、クラス最高のマルチタスク パフォーマンスを提供し、一般的なユーザー シナリオにおいてパフォーマンスが最大 **33% 向上**します。



バリュー モデル の計算

次に、「データから価値へ」の進展モデルの最終部分に進み、IT グループと企業顧客にとって潜在的な節約につながるコストと価値を確認します。

前のページで示したマルチタスク パフォーマンスの結果は確かに説得力がありますが、2つのプラットフォーム間におけるパフォーマンスの差異の価値を計算するには、さらに重要な点がいくつかあります。年間数百万ドルを新しいハードウェアに投資することを検討している IT 意思決定者にとって、時間的価値または人的価値、つまりパフォーマンス メトリクスがどのように金額に変換されるかを理解することは、購入の重要なインジケータとなります。

今回の分析では、Signal65 がまったく異なる 3 種類のコマーシャル エンタープライズ ペルソナを作成しました。それぞれが、大規模組織内の異なるユーザー層を代表しており、利用状況やワークロードの違いに応じて、各コマーシャル プラットフォームの価値をよりの確に理解し、予測することを目的としています。



#1 オフィス生産性ユーザー

Word、Excel、PowerPoint といったオフィス アプリケーション、特にメールやカレンダー管理に用いる Outlook を中心に業務時間の大部分を過ごす典型的なオフィス ワーカー。このペルソナでは、オフィス生産性のパフォーマンスと Teams の 2x2 通話におけるマルチタスクの結果に焦点を当てています。



#2 エグゼクティブ ユーザー

人数としては少数派ですが、典型的なコマーシャル エンタープライズ環境におけるエグゼクティブ ユーザーも、業務時間の大半をオフィス アプリケーションに費やしています。ただし、Excel や Word よりも Outlook や PowerPoint に比重が置かれる傾向があります。そのため、「1 日の典型的な操作パターン」もこの傾向に合わせて設定しています。このペルソナでも、オフィス生産性のパフォーマンスと Teams の 2x2 通話におけるマルチタスクの結果に焦点を当てています。



#3 コーポレート クリエイター ユーザー

このコマーシャル ユーザーは、典型的なオフィス アプリケーションをコラボレーションや共有に使用する時間もありますが、主にコンテンツ制作に重点を置いたクリエイティブ業務に従事しています。このペルソナでは、オフィスアプリの「典型的」な使用は最小限に抑え、代わりに Adobe Photoshop の時間測定操作を計算に組み込んでおり、クリエイター向けアプリケーションに多くの時間を費やしているユーザーを反映しています。

バリュー モデルの計算

Procyon Office Productivity ベンチマークでは、Microsoft Word、Excel、PowerPoint、Outlook の各オフィス機能のパフォーマンスを数値化します。具体的には、Word 文書への画像の追加、PDF へのファイルのエクスポート、Excel での複雑なデータセットに対するピボット テーブルの作成など、特定の機能を実行するのにかかる時間を測定します。測定された作業時間は「典型的な 1 日の作業時間」に当てはめ、その結果をスケールアップすることで、数日または数年にわたる時間節約を推定します。これは、AMD Ryzen™ AI PRO システムを大規模に採用した場合の長期的なメリットを測定するのに役立ちます。

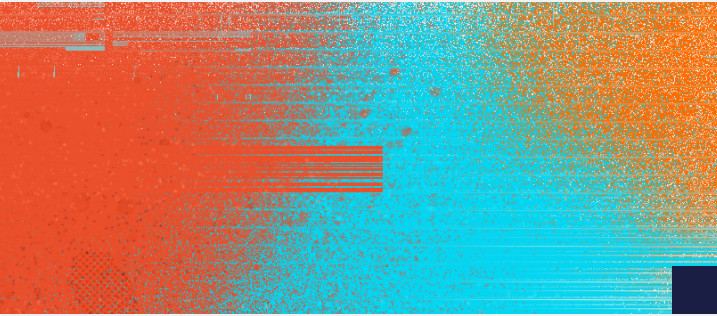
次の表は、Signal65 が算出した「典型的な 1 日」を示したもので、上記の各ペルソナにおいて、個々のユーザーがこれらの機能をどの程度の頻度で実行するかを推定しています。典型的なオフィス ワーカーは、Word で 1 日あたり 25 回コピー /ペーストを使用し、1 日あたり 5 回画像を埋め込み、そのたびに画像を拡大縮小すると推定されます。PowerPoint では、1 日に 15 回スライド アニメーションを追加し、1 日に 3 回プレゼンテーションを PDF にエクスポートして配布する、といった具合です。

各企業が従業員の「典型的な 1 日」を算出することも可能ですが、当社チームや複数の IT マネージャーとの議論を通じて、上記のデータがこの議論の合理的な出発点であり、典型的なオフィス ユーザー グループを示していると判断しました。

		生産性	エグゼクティブ	コンテンツ制作
	事業活動	操作回数/日	操作回数/日	操作回数/日
Word 操作	比較の承諾	3	3	3
	画像の追加	5	5	5
	透かしの追加	2	2	2
	文書の比較	3	3	3
	PDF からの変換	3	6	3
	Excel からコピー	10	10	5
	コピー /ペースト	25	25	10
	カット/ペースト	25	25	10
	ファイルの埋め込み	5	5	5
	PDF へのエクスポート	3	6	3
	検索	10	10	5
	画像の効果設定	5	5	5
	画像の拡大縮小	5	5	5
	読み込み	5	5	5
	保存	20	20	10
	目次の作成	3	3	3
Excel の操作				
	コピー /ペースト	25	40	5
	セルの編集	20	50	20
	PDF へのエクスポート	3	3	1
	表の書式設定	5	30	3
	読み込み	5	10	5
	住宅ローンの読み込み	3	6	3
	住宅ローンの変更	15	30	5
	ピボット テーブル	5	5	5
	保存	20	40	10
	CSV として保存	2	4	2
	方程式の解決	10	20	5
	列の並べ替え	20	40	8
	一意ペア	5	5	2
	Vlookup	10	25	5
	投票者解析	5	5	2

バリュー モデルの計算

表の続き:



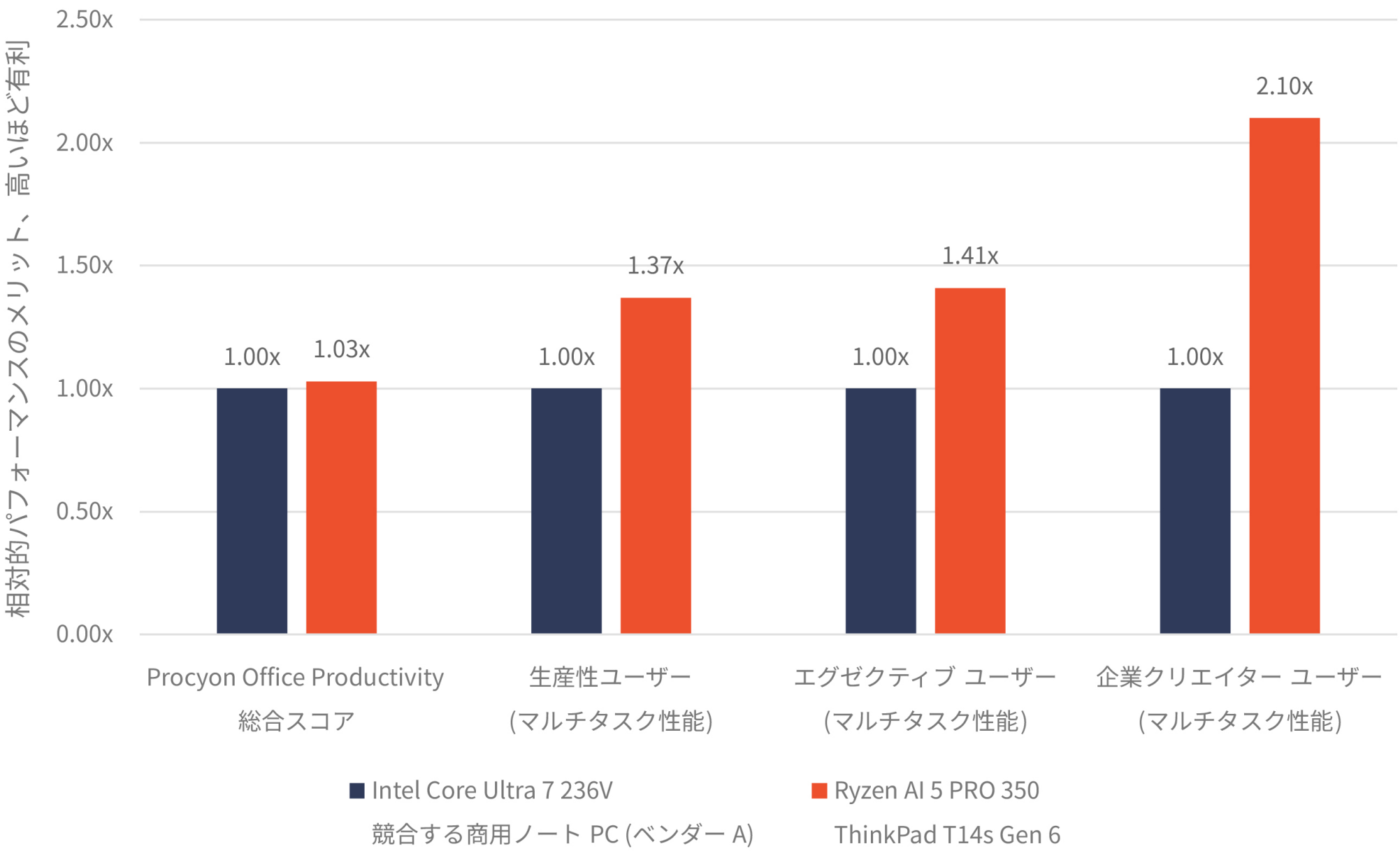
		生産性	エグゼクティブ	コンテンツ制作
	事業活動	操作回数/日	操作回数/日	操作回数/日
PowerPoint の操作	アニメーションの追加	15	4	15
	画像の追加	25	10	25
	動画の追加	3	2	3
	Word からのコピー	10	5	10
	PDF へのエクスポート	3	10	3
	動画のエクスポート	2	2	2
	読み込み	5	5	5
	マージ	5	5	5
	保存	20	40	20
Outlook の 操作	バックアップ	1	2	1
	メールの移動	15	45	15
	新規アポ	5	25	5
	添付ファイルの保存	5	25	5
	メールの検索	15	50	15
	メールの作成	25	50	25
Photoshop 操作	ファイルを開く - RAW			10
	150 MP にリサイズ - ディテールを保持			2
	150 MP にリサイズ - バイキュービック法 (滑らか)			2
	回転			5
	被写体を選択			15
	選択とマスク			15
	スマート オブジェクトに変換			5
	ペイント バケット ツール			20
	指先ツール			5
	アダプティブ ワイド アングル			6
	Camera Raw			5
	レンズ補正			5
	コンテンツに応じた塗りつぶし			30
	ノイズを軽減			4
	スマート シャープ			8
	虹彩ぼかし			4
	フィールドぼかし			4
	ファイルを保存 - JPG			5
	ファイルを保存 - PNG			5
	ファイルを保存 - PSD			5
	ファイルを開く - PSD			5

バリュー モデルの計算

多様なベンチマークで測定された操作時間にこれらの操作倍率を適用すると、各システムの「パフォーマンス」が興味深い形で変化します。1つのプラットフォーム上では高速に動作する機能でも、1日あたり3倍または10倍の負荷がかかると、各ユーザーがその機能で消費する総時間がより大きくなります。その結果、たとえばAMD Ryzen AI PRO 7 350とIntel Core Ultra 7 268Vプロセッサを比較したテストシステムでは、Procyon Office Productivity 総合スコアで基本的に同等のパフォーマンスを示していたものの、今回の計算では両者の差がより大きく表れることになりました。

まず、Ryzen AI 7 PRO 350とCore Ultra 7 268Vの比較から始めます。左側は、AMDとIntelを搭載した商用ノートPCの相対的な性能比較です。両者とも基本的に同じ性能結果を示しており、初期のテスト結果と整合しています。一方、右側の3つの比較は、前述した各ペルソナを表しており、「典型的な1日」の推定値と操作時間を考慮した場合の結果を示しています。これにより、システムが処理を完了するのを待つ時間が短縮され、コマーシャルユーザーにとって1日あたりの「時間節約」指標につながります。つまり、単一タスクではほぼ同等だった性能比較が、オフィス生産性ユーザーやエグゼクティブユーザーでは最大で約40%、コーポレートクリエイターユーザーでは2倍以上の差に広がります。

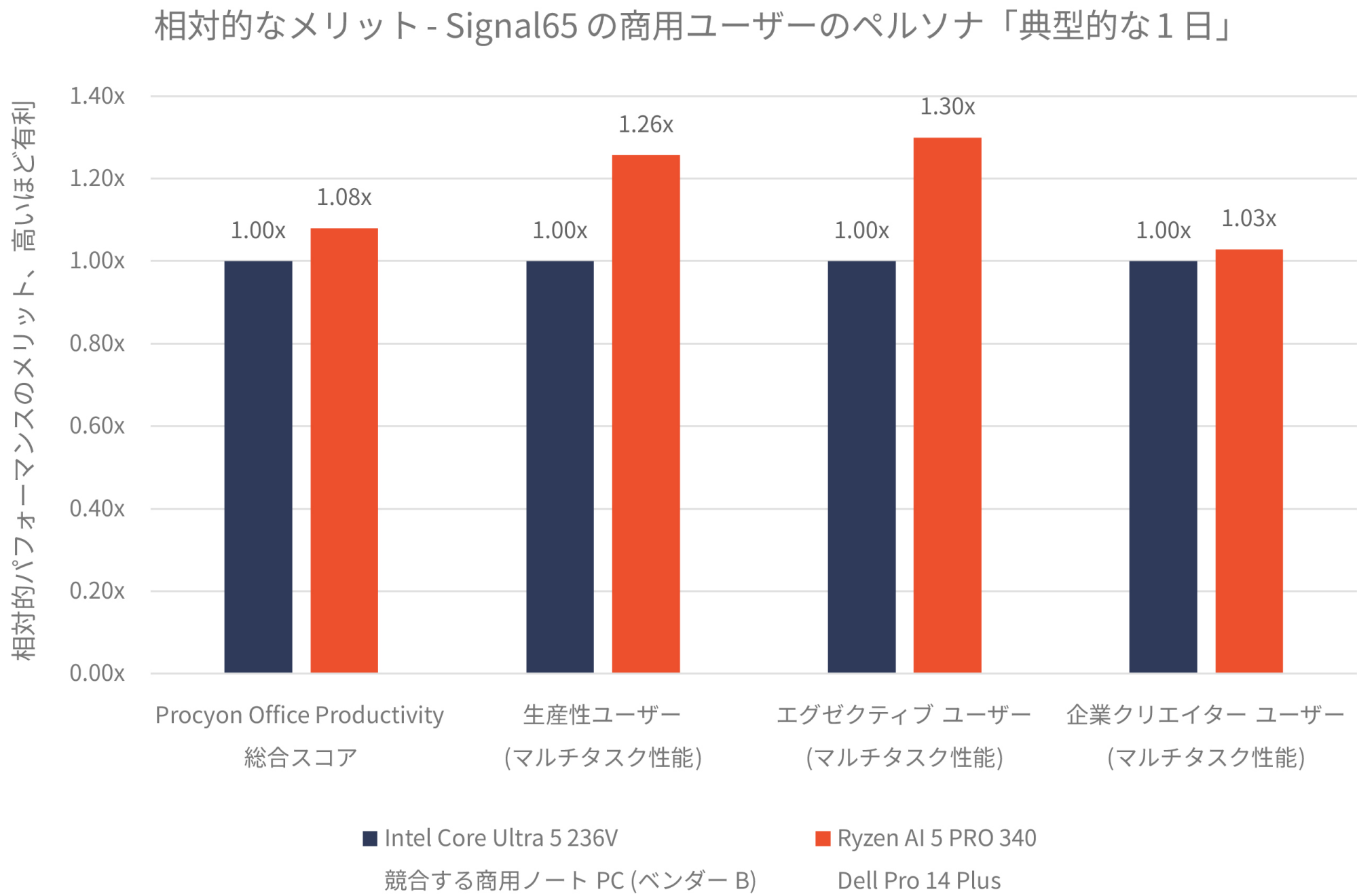
相対的なメリット - Signal65 の商用ユーザーのペルソナ「典型的な1日」



AMD Ryzen AI PRO プロセッサ搭載ノート PC は、競合製品に比べ最大2倍のペルソナ別性能を発揮します。

バリュー モデルの計算

次のチャートは、AMD Ryzen AI 5 340 と Intel Core Ultra 5 236V システムの比較を示しています。結果は、オフィス生産性ユーザーとエグゼクティブユーザーに関しては類似しており、AMD 搭載プラットフォームが 8% の優位性を持ち、「1 日の業務」測定と時間節約を考慮すると、その差は約 30% に広がります。コーポレート クリエイター ユーザーでは、オフィス生産性ユーザーやエグゼクティブユーザーほどの性能向上は確認できません。ただし、この 6 コア AMD 構成は、以前の Photoshop 単体ベンチマークでは Intel Core Ultra 5 より 10% 劣っていたため、今回のマルチタスクシナリオで相対的な改善が確認できる点は注目に値します。



バリュー モデルの計算

次のステップは、この利点を時間 (分と時間) に変換し、従業員の時間価値と対応させることです。

AMD Ryzen AI 7 PRO プロセッサ搭載システムを導入すれば、企業は初年度に**従業員の時間と先行投資コストで最大 \$5,300 万**を削減可能です。

		生産性		エグゼクティブ		コンテンツ制作	
		Intel Core Ultra 7 268V 競合コマーシャル ノート PC (ベンダー A)	Ryzen AI 7 PRO 350 ThinkPad T14s Gen 6	Intel Core Ultra 7 268V 競合コマーシャル ノート PC (ベンダー A)	Ryzen AI 7 PRO 350 ThinkPad T14s Gen 6	Intel Core Ultra 7 268V 競合コマーシャル ノート PC (ベンダー A)	Ryzen AI 7 PRO 350 ThinkPad T14s Gen 6
1	「典型的な 1 日」における Office アプリの総操作時間 (分)	13.31	9.68	29.40	20.91	45.46	34.50
2	268V と比較した「典型的な 1 日」あたりの節約時間 (分)	--	3.62	--	8.50	--	10.97
3	240 勤務日で 1 年間に節約できる時間 (時間)	--	14.48	--	33.99	--	43.87
4	プロフェッショナル企業の平均給与 (\$)	--	\$120,000	--	\$225,000	--	\$180,000
5	従業員の時間に対する 1 時間あたりの潜在的平均価値 (\$)	--	\$62.50	--	\$117.19	--	\$93.75
6	従業員 1 人あたりの 1 年間の節約時間の推定価値 (\$)	--	\$905.25	--	\$3,983.00	--	\$4,112.45
7	システム取得初期費用 (2025 年 1 月 12 日現在)	\$2,029	\$1,539	\$2,029	\$1,539	\$2,029	\$1,539
8	従業員 1 人あたりのシステム取得コスト節約額	--	\$490	--	\$490	--	\$490
9	企業の総従業員数と配置		19,000		2,000		4,000
10	Ryzen AI PRO プラットフォームの導入による従業員の価値合計		\$26,509,715		\$8,945,992		\$18,409,802
11	全従業員の総価値	\$53,865,510					

1. 観察された「典型的な 1 日」において、ユーザーが能動的に機能の完了を待っている、上記の操作の合計時間を計算しました。

2. より高性能なマルチタスク システムを使用した場合に 1 日に節約できる時間を合計 (分単位) したものです。当社の測定では、AMD Ryzen AI 7 PRO 350 を搭載した ThinkPad T14s Gen 6 のユーザーは、コマーシャル ペルソナに応じて 1 日あたり 3.5 ～ 11 分を節約できることが示されています。

3. これに年間 240 営業日かけると、ユーザーが節約できる時間を時間数に換算できます。生産性ユーザーでは年間約 14 時間、クリエイター ユーザーでは最大 43 時間の節約に相当します。

4. 各ペルソナに対して合理的な平均的従業員給与を次のように見積もっています。生産性ユーザーは年間 \$12 万、エグゼクティブ ユーザーは年間 \$22.5 万、コーポレートクリエイター ユーザーは年間 \$18 万です。

5. これは、週 40 時間労働を基準とすると、ペルソナに応じて時給 \$62 ～ \$117 に相当します。

6. この時給と推定節約時間を掛け合わせると、当社が算出した「時間的価値」に基づき、従業員 1 人あたり年間 \$905 から \$4,112 の範囲となります。

7. この記事の執筆時点では、これら 2 台のノート PC の購入価格は表示してあるとおりです。企業の購入には、さまざまなリベートや取り決めがあることは理解したうえで、公にアクセスできるデータのみに基づいています。

8. ユーザー 1 人あたりの追加コスト削減額は、初期購入費用において \$490 です。

9. この例では、一般的な生産性業務に従事する従業員が 1 万 9,000 人、エグゼクティブ ペルソナの従業員が 2,000 人、コーポレート クリエイター ペルソナの従業員が 4,000 人という構成の大企業を想定しています。

10. これらの前提に基づくと、この規模の企業は初年度に合算で \$5,300 万以上を節約できるという見積もりになります。

バリュー モデルの計算

次に、Ryzen AI 5 PRO 340 を搭載した Dell Pro 14 Plus と、競合する Core Ultra 5 236V システムを対象に、同様の計算を適用します。この比較における性能差は Ryzen AI 7 のケースとは異なるため、どのペルソナが最も大きな恩恵を受けるかにも違いが見られます。

AMD Ryzen AI 5 PRO プロセッサ搭載システムを導入すれば、企業は初年度に**従業員の時間と先行投資コストで最大 \$3,400 万**を削減可能です。

		生産性		エグゼクティブ		コンテンツ制作	
		Intel Core Ultra 5 236V 競合コマーシャル ノート PC (ベンダー B)	Ryzen AI 5 PRO 340 Dell Pro 14 Plus	Intel Core Ultra 5 236V 競合コマーシャル ノート PC (ベンダー B)	Ryzen AI 5 PRO 340 Dell Pro 14 Plus	Intel Core Ultra 5 236V 競合コマーシャル ノート PC (ベンダー B)	Ryzen AI 5 PRO 340 Dell Pro 14 Plus
1	「典型的な 1 日」における Office アプリの総操作時間 (分)	13.85	11.02	33.36	24.01	52.93	50.41
2	236V と比較した「典型的な 1 日」あたりの節約時間 (分)	--	2.83	--	9.35	--	2.53
3	240 勤務日で 1 年間に節約できる時間 (時間)	--	11.32	--	37.39	--	10.11
4	プロフェッショナル企業の平均給与 (\$)	--	\$120,000	--	\$225,000	--	\$180,000
5	従業員の時間に対する 1 時間あたりの潜在的平均価値 (\$)	--	\$62.50	--	\$117.19	--	\$93.75
6	従業員 1 人あたりの 1 年間の節約時間の推定価値 (\$)	--	\$707.65	--	\$4,381.61	--	\$947.45
7	システム取得初期費用 (2025 年 1 月 12 日現在)	\$1,735	\$1,388	\$1,735	\$1,388	\$1,735	\$1,388
8	従業員 1 人あたりのシステム取得コスト節約額	--	\$347	--	\$347	--	\$347
9	企業の総従業員数と配置		19,000		2,000		4,000
10	Ryzen AI PRO プラットフォームの導入による従業員の価値合計		\$20,038,434		\$9,457,217		\$5,177,802
11	全従業員の総価値	\$34,673,454					

1. 観察された「典型的な 1 日」において、ユーザーが能動的に機能の完了を待っている、上記の操作の合計時間を計算しました。

2. より高性能なマルチタスク システムを使用した場合に 1 日に節約できる時間を合計 (分単位) したものです。当社の測定では、AMD Ryzen AI 5 PRO 340 を搭載した Dell Pro 14 Plus のユーザーは、コマーシャル ペルソナに応じて 1 日あたり 2.5 ～ 9 分を節約できることが示されています。

3. これに年間 240 営業日をかけると、ユーザーが節約できる時間を時間数に換算できます。クリエイター ユーザーでは年間約 10 時間、エグゼクティブ ユーザーでは最大 37 時間の節約に相当します。

4. 各ペルソナに対して合理的な平均的従業員給与を次のように見積もっています。生産性ユーザーは年間 \$12 万、エグゼクティブ ユーザーは年間 \$22.5 万、コーポレートクリエイター ユーザーは年間 \$18 万です。

5. これは、週 40 時間労働を基準とすると、ペルソナに応じて時給 \$62 ～ \$117 に相当します。

6. この時給と推定節約時間を掛け合わせると、当社が算出した「時間的価値」に基づき、従業員 1 人あたり年間 \$707 から \$4,381 の範囲となります。

7. この記事の執筆時点では、これら 2 台のノート PC の購入価格は表示してあるとおりです。企業の購入には、さまざまなリベートや取り決めがあることは理解したうえで、公にアクセスできるデータのみに基づいています。

8. ユーザー 1 人あたりの追加コスト削減額は、初期購入費用において \$347 です。

9. この例では、一般的な生産性業務に従事する従業員が 1 万 9,000 人、エグゼクティブ ペルソナの従業員が 2,000 人、コーポレートクリエイター ペルソナの従業員が 4,000 人という構成の大企業を想定しています。

10. これらの前提に基づくと、この規模の企業は初年度に合算で \$3,400 万以上を節約できると見積もれます。

まとめ

営利企業では、システムの刷新や従業員のフリート更新が頻繁に実施されており、企業の CIO や ITDM には課題とチャンスの両方が存在することになります。プラットフォームのアップグレードは大変な作業ですが、同時に生産性の向上、セキュリティの強化、IT への投資価値の向上を実現するチャンスでもあります。

AMD および AMD Ryzen™ AI PRO 300 シリーズプロセッサを搭載した新プラットフォームは、商用バイヤーが検討すべき強力な論拠を提供します。この次世代プロセッサは、パフォーマンス、効率性、AI 機能、そして優れた費用対効果を兼ね備えており、今後のリフレッシュ購入を計画している IT 部門にとって最有力の選択肢となります。

マルチタスク シナリオと Office/クリエイターアプリケーションの実測性能に基づいた当社の価値計算によれば、従業員時間を考慮した場合、AMD Ryzen™ AI PRO プロセッサを搭載したシステムは、競合ソリューションに対して大幅なコスト上の優位性を示します。もちろん、どのような企業においても、展開時の TCO を完全に分析するにはほかの要素もかかわりますが、最新の AMD CPU 設計におけるマルチスレッド性能と低い初期購入コストは、Ryzen™ AI PRO プラットフォームを検討するうえでの有力なデータポイントとなります。

さらに、本レポートで提示したペルソナ別の計算により、IT 意思決定者は自社のユーザー ニーズやコスト構造を提供データに適切に対応させることができます。そのうえで、Ryzen AI 7 PRO プロセッサ搭載システムと Ryzen AI 5 PRO プロセッサ搭載システムを程よく組み合わせることで、パフォーマンス、価格、従業員時間のバランスを最適化できます。

AI パフォーマンスと Copilot+ のサポートに重点を置いて次回のフリート アップグレードを計画している場合、新しい AMD Ryzen AI PRO 300 プロセッサシリーズは、Recall、AI ベースの検索、画像生成など、これらの Windows 11 の新しい AI 機能を包括的にサポートしている点で一歩抜きん出ています。加えて、高性能な XDNA ベースの NPU により、これまでに購入および実装されたシステムでも、2025 年以降の将来のエンタープライズ AI ワークロードに十分に対応できます。

AMD Ryzen AI PRO プロセッサの詳細については、次のサイトをご覧ください。

<https://www.amd.com/en/products/processors/laptop/ryzen-for-business.html>

AMD Ryzen AI PRO プロセッサを搭載した Lenovo T14s Gen 6 と Dell Pro 14 Plus を対象に Signal65 が実施したテストにおいて、Intel Core Ultra ソリューションを搭載した大手 OEM ノート PC と比較したところ、いくつかの重要なポイントが明らかになりました。

- AMD Ryzen AI 7 PRO 350 システムでは、従業員の時間価値を \$5,300 万以上節約可能⁴
- AMD Ryzen AI 5 PRO 340 システムでは、従業員の時間価値を \$3,400 万以上節約可能
- AMD Ryzen AI 7 PRO 350 プロセッサは、マルチスレッドアプリケーションで最大 24% 高速
- AMD Ryzen AI 7 PRO 350 は、オフィス生産性アプリとクリエイティブアプリを含むマルチタスクシナリオで最大 150% 高速



最大
\$5,300 万
コスト削減

4. 総コスト削減額の算出では、一般的なオフィス業務に従事する 2 万 5,000 人の従業員、クリエイティブ業務に従事する 4,000 人の従業員、2,000 人の経営層を抱える企業を例にとり、初期システム取得費用 (従業員 1 人あたり) と従業員 1 人あたりの時間価値の節約 (典型的なオフィス業務のワークロードにおけるマルチタスク パフォーマンスを使用) を比較しています。

本レポートに 関する重要な お知らせ

連絡先情報

Signal65 | signal65.com | info@signal65.com

投稿者

Ryan Shrout

Signal65、プレジデント兼 GM

Ken Addison

Signal65、クライアント パフォーマンス
ディレクター

お問い合わせ

本レポートに関しては、Signal65 までお問い
合わせください。

引用

認定されたプレスやアナリストは、本レポート
を引用できます。ただし、著者名、著者タイトル、
「Signal65」を表示し、文脈内で引用する必要
があります。プレスやアナリスト以外の方が
引用する場合は、事前に Signal65 の書面に
よる許可を得る必要があります。

ライセンス

補足資料を含む本書の著作権は、Signal65 に
帰属します。Signal65 の書面による事前の許可
なく、本書を複製、配布、共有することを禁じ
ます。

情報開示

Signal65 は、本レポートで言及した企業を含む
多くのハイテク企業に調査、解析、助言、ラボ
サービスを提供しています。本書は AMD の委託
によるものです。

協力:

AMD

together we advance_

Signal65 について

テクノロジー市場や製品ランドスケープでは、製品
の真実に対して複雑で歪んだ見方がもたらされ
ています。そのような世界の中で、Signal65 は
データの情報源となることを目指しています。
お客様が自社の競争上のポジショニングをより
よく理解し、デバイスやサービスのマーケティング
やメッセージの最適な機会を創出できるよう、
誠実で包括的なフィードバックと解析を提供する
よう努めています。



システム構成

	LENOVO THINKPAD T14S GEN 6	競合コマーシャル ノート PC (ベンダー A)	DELL PRO 14 PLUS	競合コマーシャル ノート PC (ベンダー B)
CPU	AMD Ryzen AI 7 PRO 350	Intel Core Ultra 7 268V	AMD Ryzen AI 5 PRO 340	Intel Core Ultra 5 236V
グラフィックス	AMD Radeon 860M	Intel Arc 140V	AMD Radeon 840M	Intel Arc 130V
RAM	64 GB DDR5-5600	32 GB LPDDR5X-8533 (オンチップ)	16 GB LPDDR5X-7500	16 GB LPDDR5X-8533
ストレージ	1 TB Micron MTFDKBA1T0TGB-2BK15ABLT	1 TB Samsung MZVLC1T0HFLU-00BL	512 GB Western Digital SN5000S	512 GB Kioxia BG6
ディスプレイ	14" 1920x1200	14" 1920x1200	14" 1920x1200	14" 1920x1200
システム BIOS	R2XET33W	N4HET17W	1.5.1	2.4.2
オペレーティング システム	Windows 11 Pro 26100.4770	Windows 11 Pro 26100.4770	Windows 11 Pro 26100.4770	Windows 11 Pro 26100.4770
Windows 電源モード	ハイ パフォーマンス	ハイ パフォーマンス	ハイ パフォーマンス	ハイ パフォーマンス
仮想化ベースのセキュリティ	有効化	有効化	有効化	有効化

使用したアプリケーション

Geekbench 6.4.0	Microsoft Office 365 2507
Cinebench 2024.0.1	Adobe Photoshop 26.8
Passmark PerformanceTest 11.1 (ビルド 1005)	Adobe Lightroom Classic 13.5.1
UL Procyon 2.10.1729	Pugetbench for Creators 1.3.20



signal**65**